

中学校 国語科 学習指導案

〇〇立〇〇中学校
指導者 〇〇 〇〇

1. 日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇時限
2. 場 所 第1学年 〇組 教室
3. 学年・組 第1学年〇組 (〇〇名)
4. 単元名 読みを深め合う (読むこと)
5. 教材名 『トロッコ』 (使用図書は、教科書：〇〇〇〇)
6. 単元の目標

- (1) 比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- (2) 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) イ
- (3) 場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- (4) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
- (5) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

7. 教材観

本教材は、少年時代の主人公のトロッコにまつわる体験が語られる場面と、大人になった現在の主人公について語られる場面の2部構成で書かれた芥川龍之介作の短編小説である。大半を占める少年時代の場面には主人公の揺れ動く心情が巧みに表現されており、描写を手掛かりに主人公の心情を捉えたり、表現の効果を考えたりするのに適している。また、主人公が少年時代を思い出すことがあると書かれている現在場面の読み取りの中、過去と現在の場面を結び付けて内容を解釈したり、作品に新たな価値づけをしたりできる教材でもある。

明治時代を舞台とした話で、生徒にとって馴染みのない言葉・物も多く登場する作品だが、巧みな描写により、生徒は豊かに場面の様子を想像しながら読み進めることができるだろう。

8. 生徒観

省略

9. 指導観

本単元では、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができる。」上記6(3)を重点目標とし、特に「描写と結びつけて内容を解釈する」力を育成する。その際、「生徒が主体的に読みに向かう学習」となるように心がけ、次のような流れで指導をすすめたいと考える。

まず、単元末に自分なりの解釈を「私の『トロッコ』解説書」として書きあげることを確認し

た上で、物語を貫く問い（大問）「大人の良平は、8歳の時の冒険をどう捉えているのだろうか」を設定する。その大問解決に繋がる小問を毎時間に設定。生徒が必然性をもって読み深めに取り組むようにする。また、小問に取り組む過程で得る学び（解釈のための着眼点、注目すべき描写）を「解釈名人へのコツ」と名付けたワークシートに毎時間書き留めながら学習を進め、生徒が「自分の身につけた読みの力」を意識できるようにする。

同時に、「既習事項を活用した読み」が本単元学習に生きていることを自覚できるよう授業を展開し、生徒自身が、本単元で培った国語の力を今後活用していこうとする意識を育てたい。授業者としては、次単元「読書活動」との関連性や、次学年『小さな手袋』での指導との系統性も考えて指導する必要があると考える。

また、少年時代の冒険の全体像をつかみやすいように「冒険マップ（主人公のたどった行程をルート図にしたもの）を活用したり、「解説書」のイメージをつかみやすいように「解説」が記載された実際の本を示したり、解説文の記述に困難を感じる生徒がいた際の難易度別ワークシートを準備する等の学習支援を図り、全ての生徒がねらいの達成に向けて主体的に読みに向かう学習時間となるよう、指導を進めていきたい。

10. 単元の評価規準

知識・技能【知】	思考・判断・表現【思】	主体的に学習に取り組む態度【態】
比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 (2) イ	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 C(1) イ ②「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈している。 C(1) ウ ③「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 C(1) エ	大問の解決に向けて、各時の小問について粘り強く考え、考えたことを伝え合おうとしている。

11. 指導と評価の計画（全6時間）

時間	主な学習活動	評価規準（◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	●学習の概要を知る。 ・単元学習計画表で言語活動、ゴール、めあてについて確認する。 ・物語の設定、構造について確認する。 構造と内容の把握 ●大問「大人の良平は、8歳の時の冒険をどう捉えているのか」について考える。	○（ワークシート、教科書）	○①②（ワークシート、教科書）	
2	●「行き帰りのみかん畑の情景描写を比較し、その時の良平の心情を考える。」小問① 精査・解釈		○①③（ワークシート、行動観察）	○（振り返り）
3	●「良平の明るい心情はどの場所から変化したのかを考える。」小問② 精査・解釈		◎①（ワークシート）	◎（振り返り、ワークシート）

4	●「情景描写の“明るさ”の変化とその効果について考える。」 小問③ 精査・解釈	○（ワークシート）		
5 (本時)	●「私の『トロッコ』解説書」を書く。 ・大問について再考し、情景描写を基に書く。 精査・解釈 ・班で「解説書」を読み合い、学習を振り返る。	◎（解説書）	◎②（解説書） ◎③（解説書）	
6	●単元テスト ・課題文（別の物語文）を読み、「私の解説書」を書く。 精査・解釈		◎②（解説書）	

12. 本時の展開 （第5時）

（1）本時の目標

- ・比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、「解説書」を書く際にそれらを使うことができる。 （知・技）
- ・「現在」と「過去」の場面、場面と情景描写などを結び付けて、大問について解釈することができる。 （思・判・表）
- ・良平の8歳の時の冒険の帰り道の展開や情景描写の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 （思・判・表）

（2）本時の評価規準 （記録に残す評価：知技、思判表②、思判表③）

- ・比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、「解説書」を書く際にそれらを使っている。 【知・技】
- ・「現在」と「過去」の場面、場面と情景描写などを結び付けて、大問について解釈している。 【思・判・表②】
- ・良平の8歳の時の冒険の帰り道の展開や情景描写の効果について、根拠を明確にして考えている。 【思・判・表③】

（3）本時の具体的な子どもの姿（判断の基準）

知識・技能

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する子ども(C)への支援
小問や大問を考えるために、「現在」と「過去」の場面などを比較や分類するだけでなく、関連付けるなど複数の情報の整理の仕方を使っている。	小問や大問を考えるために、「現在」と「過去」の場面などを比較や分類している。	情景描写を基に、「現在」と「過去」の良平の心情の共通点を考えるように促す。

思考・判断・表現

十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する子ども(C)への支援
「現在」と「過去」の場面を結び付けて複数の描写を基に登場人物の心情などを解釈している。	「現在」と「過去」の場面を結び付けて少なくとも1つの情景描写を基に登場人物の心情などを解釈している。	情景描写を短い語句で区切り、その言葉からどんな雰囲気が伝わってくるか考えるように促す。

(4) 本時の学習過程

時間 (分)	主な学習活動	指導上の留意点	【観点】評価規準 (評価方法)
3	① 前時の整理と本時のめあてを確認する。	・第4時の学習内容を整理する。 ・めあてと大問をおさえる。	
(めあて) 大問 大人の良平は、8歳の時の冒険をどう捉えているのか、自分の解釈を「私の『トロッコ』解説書」に書こう。			
5	②「冒険マップ」で8歳の冒険を振り返る。 大好きなトロッコに乗れて楽しかった冒険 一人で帰れるか不安で、今までで一番恐怖を感じた冒険 現在の場面で「塵労に疲れた」と書いていて、走って帰った8歳の良平の疲れと重なっている 「薄暗い」描写は過去と現在で似ている気がする	・良平のさまざまな心情を読み取れる冒険だったことをおさえる。 8歳の冒険はどんな冒険だった？ - では、なぜその冒険を、「今」良平は思い出しているのだろうか？少し隣の人と話してみよう。 - 今回は「薄暗い～断続している。」という情景描写に注目して考えよう。	
30	③ 「私の『トロッコ』解説書」を書く。 ・解釈の根拠とした情景描写を基に書く。 ・題名を漢字2字（造語可）で表す。	・難しい言葉について補足説明する。 ・「解説書」の書き方を説明する。 ・大人の良平と8歳の良平の共通点を探すように促す。 ・書く支援のための「コツ①」や「コツ②」のワークシートを使ってもよいことを伝える。 ・自分の解説書の内容にあった二字熟語を題名にすることを確認する。	知識・技能 (解説書) 【記録に残す評価】
10	④「解説書」を班で回し読みし、一言感想を書く。	・『少年の日の思い出』の「解説書」を見ても良いことを伝える。	思考・判断・表現②③ (解説書) 【記録に残す評価】
2	⑤次時の予告を聞く。	・次時は単元テストを行うことを伝える。	